



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年5月13日)

ポイント

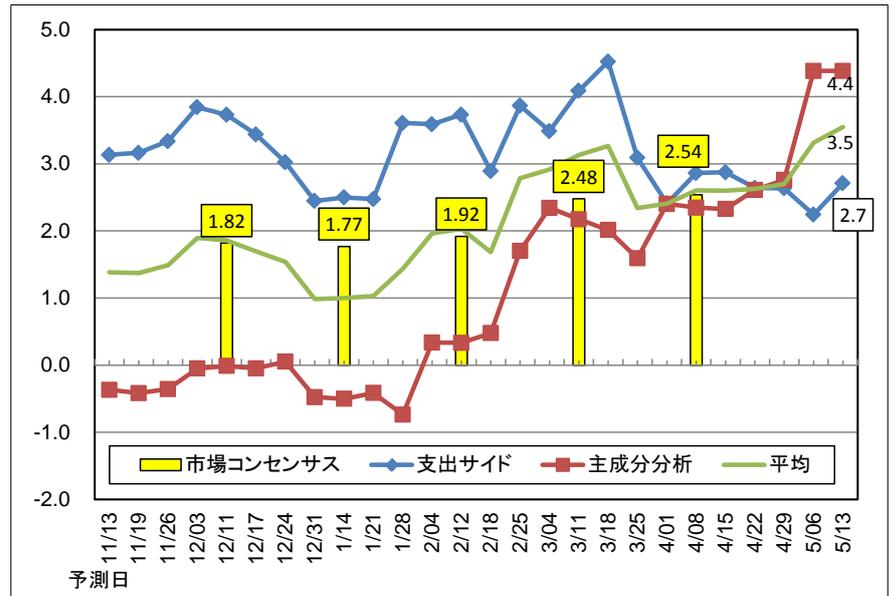
▶先週(4/29-5/3)は4月の景気ウォッチャー調査、3月の消費総合指数、景気動向指数及び国際収支状況を更新した。これらは、民間最終消費支出と純輸出の予測に影響する。

▶3月の消費総合指数は前月比-0.1%と3ヵ月ぶりのマイナス。しかし、1-3月期は前期比+0.9%となり、10-12月期の同+0.5%から加速した。

▶資産効果が民間消費を押し上げている。このため1-3月期の実質民間最終消費支出は前期から加速する。最終週のCQM(支出サイドモデル)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.7%と予測するが、民間最終消費支出がこの大部分を説明している。

▶1-3月期の経常収支黒字は前期比-32.1%と縮小。所得収支黒字は拡大したが、円安の影響で貿易・サービス収支赤字が大幅に拡大した。この結果、1-3月期の実質純輸出の成長率への寄与度は小幅のプラスであるがほぼゼロと予測している。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<1-3月期実質GDP成長率の最終予測(支出サイドモデル)は前期比年率+2.7%>

先週(4/29-5/3)は4月の景気ウォッチャー調査、3月の消費総合指数、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。これらは、民間最終消費支出と純輸出の予測に影響を与える。

3月の消費総合指数は前月比-0.1%と小幅低下し、3ヵ月ぶりのマイナス。しかし、1-3月期の消費総合指数は前期比+0.9%となり、10-12月期の同+0.5%から加速している。アベノミクスを好感した株価は昨年11月の底点から60%上昇しており、資産効果が民間消費を押し上げたとえよう。この結果、1-3月期の実質民間最終消費支出を前期比+0.9%と予測。これらを反映した結果、今週のCQM(支出サイドモデル)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+0.7%、同年率+2.7%と予測。民間最終消費支出の実質GDP成長率への寄与度は前期比0.5ポイントであり、大部分を説明することになる。

3月の経常収支(季節調整値)は3,424億円と2ヵ月ぶりの黒字となった。しかし、1-3月期の経常黒字は前期比-32.1%と縮小している。所得収支の黒字は拡大したが、貿易・サービス収支赤字が大幅に拡大したためである。サービス収支赤字は縮小したものの、円安の影響で貿易赤字は大幅に拡大している。この結果、1-3月期の実質純輸出の成長率への寄与度は小幅のプラスであるがほぼゼロと予測している。

16日に1-3月期のGDP1次速報値が発表されるため、今週が同期の最終予測値となる。先週の予測(+2.2%)から上方修正されたが、先週予想したものからは幾分低い結果となった。一方、主成分分析モデルは同+4.4%と先週と同じ高い成長率を予測している。CQMでは支出サイドを重視しているが、過去の予測誤差の幅を考慮すれば支出サイドの成長率が先週コメントしたように3%を超える高い成長率となってもおかしくない。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550